社会福祉法人ゆたか福祉会広報

ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

2021
No.466

障害者のゆたかな未来をめざして 11

「勇気と希望が友達」　ゆたか生活支援事業所みどり　森井 照子さん　※紹介が7ページにあります。

CONTENTS

▶ 経営指針会議の開催に想う①
～理念を職場運営と支援の要として～ …… P2

▶ 私たち３回目の成人式を迎えました！ …… P9～12

愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

2021年11月10日 毎月1回10日発行　一部100円（法人会員･賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会　〒457-0852　名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356　FAX 052-698-7358　http://www.yutakahonbu.com/

ゆたか福祉会　検索

経営指針会議の開催に想う①

理念を職場運営と支援の要として

～なぜ「指針会議」を始めることにしたか～

理事長　鈴木 清覚

広報等で明らかにしていますように、ゆたか福祉会は50周年の節目を越えて、新たな歴史を創造し挑戦すべき局面に立っています。この間、理事長としてこの時期に「何をなすべきか」を考え続けてきました。明確なことは、歴史を担い切り拓いてきた幹部が第一線を退き、世代交代が差し迫った重要課題となっていることです。このことを確実に行っていくためには、ゆたか福祉会の歴史を伝え、ゆたか福祉会は何のために、何を目指した事業なのかの根本を伝えていくことが大切であります。そしてそれは単なる継承や伝えるだけでは意味がなく、次世代を担う幹部が自ら主体的に学び、考え、獲得していくことが肝要です。

ここ数年、新管理職研修では経営理念「わたしたちのめざすもの」を重視して取り組んできました。しかし残念ながら、職場にゆたか福祉会の「理念」が十分に定着していないことが明らかになってきました。トヨタ自動車元会長の豊田英二氏が語っているように「社是や社訓は簡単に職場の風土にはならない」（注1）ことを痛感した次第です。その原因は、まずなにより経営のトップである私自身が必要な手立てや方針を明確にしえなかったこと、もうひとつは、事業所のトップである管理者の意識が、このことの重要さを認識できていないことではないかと考えました。

このような中で今回、理念を踏まえ、中長期計画（ゆたか福祉会においては第6期長期計画）と、現場（事業所）方針・計画が不離一体として実践されるための会議として「指針会議」を3回に渡って設定しました。提起したのは、全員参加での現場における理念の具体化、具現化です。具体的にはまず、コロナ禍で半日のオンライン会議となった所長会議の日程に合わせ、午後の半日を所長研修として位置付けました。また事前課題として、経営理念「わたしたちのめざすもの」から柱をひとつ選択し、現場の管理者としてどう具体化するかのレポート作成を提起しました。

（注1）
いかに立派な社是、社訓でも、これが一つの社風になるまで年期をつみ上げないと物にならない。そして、社風なき会社からは、立派な人材や製品は生まれてこない
「あの会社のスゴい社訓」
（浜口直太著、晋遊会新書）

わたしたちのめざすもの

障害のある人たちの“いのちとねがい”を大切に、
社会への参加とゆたかな暮らしの実現をめざします

誰もが安心して暮らせる地域をつくるため、
たくさんの“つながり”を築き拡げていきます

ゆたかな笑顔と人間性を育み、関係者の創意を活かす
とともに、社会から信頼される経営をめざします

ゆたか福祉会 新役員紹介

2021 年 6 月 12 日に行われた役員会において、水野三正理事と渡辺勲評議員・大橋宗明評議員が退任され、新たに 5 名の皆さんが新役員に選任されましたのでご紹介します。

理 事

峰島 厚さん

20 年 3 月をもって立命館大学特任教授を退任し、約 20 年間の単身赴任生活を終えて愛知県に戻ってきました。愛知を離れてはいましたが、ゆたか福祉会法人役員については、それ以前の 1985 年からの監事、評議員と途切れたことはなく、今回理事に就任しました。

長い付き合いですが、今回、また新たに、です。経験はありますが、新たなものを採り入れて、ということに四苦八苦しています、どうぞよろしくお願いします。

評 議 員

塚本 道夫さん

私は 1981 年の国際障害者年の頃、名古屋市役所で障害福祉行政に携わっていたので、ゆたか福祉会との関係は 40 年以上になります。現在、NPO 法人成年後見もやいで働いており、成年後見の仕事を通して、障害者の権利擁護の取り組みをしています。

ゆたか福祉会は共同作業所づくり運動から始まって半世紀以上の歴史がありますが、それだけに障害者と家族の高齢化など、新たな問題も抱えています。微力ですが頑張っていきたいと思っています。

浅原 千里さん

ゆたか福祉会では、これまでに新規職員研修やスーパーバイザー研修、主任研修のお手伝いをさせていただいております。大学では社会福祉士（ソーシャルワーカー）養成の実習教育を担当しています。大学教員になる前は、障害者支援の現場で 12 年間勤務しました。

コロナ禍で福祉課題の山積する中、障害者福祉のパイオニアであるゆたか福祉会の評議員を拝命し、身の引き締まる思いです。どうぞよろしくお願いいたします。

長坂 宏さん

愛知県新城市で、複数の障害福祉サービス事業所等を経営しています。ゆたか福祉会との最初の出会いは今から 43 年前、学生時代に実習をさせて頂いたことに遡ります。

そして 14 年前、愛知県の障害者相談支援体制整備事業で東三河北部圏域アドバイザーとして、設楽町の相談支援と自立支援協議会を整備する中で、福祉村キラリンとーぷを通して、再び、ゆたか福祉会と出会いました。時代を超えたご縁でしょうか。宜しくお願い致します。

大場 陽子さん

普段は認知症高齢者のグループホームと、小規模多機能型居宅介護事業所の管理者をやっております。また県や市町村、社会福祉協議会等からの依頼で、専門職の人材育成や一般向けの研修講師としても活動をしております。

ゆたか福祉会では、学生時代にアルバイトをしていたご縁もあり、初任者研修や職員研修等で講義もさせていただいております。私自身も学ばせていただきながら、少しでもお力になれればと思います。よろしくお願いいたします。

若者と考える「障害者家族の老いる権利」

学生たちの感想から

佛教大学
田中 智子

う言葉だけでも障害者家族を追い詰めてしまうのかもしれないと感じました。

・解決したい課題でも、具体的にどうしたら良いか案が出づらく、簡単なように見えて、とても複雑な問題だと感じました。自分がこれから何ができるか考えたいです。

いかがでしょうか？？？私も授業で「家族支援」ということを取り扱うのですが、いざ家族の何をどのように支援すれば良いのか？ということを考え始めるととても難しい問題だと思います。大事なことは、家族は含み資産ではないこと、家族も（夢や希望を持った）一人の人間であること、家族にも自分自身の人生を大切にする権利があることを出発点として考え続けることだと思います。家族とは誰にとっても当たり前ですが、一人ひとりが思い描く家族像や家族の経験は異なるからこそ、「家族支援」にも明快な正解は無いと言えます。

このようなアンテナを持った学生たちと、これから実習や現場の職員としてやり取りできていくことがとても楽しみです。

高校生にも期待

また別の機会に、社会福祉学部を目指す高校生とワークショップを行う機会がありました。生徒さん同士も初対面ということだったのですが、とても意欲的な方が多く、活発な意見交換がされました。テーマは、NIMBY（Not in My Back Yard）にかかる問題で、自分の家の近所に障害者施設が建つことに対して反対運動をしている住民を取り上げた新聞記事でした。障害者施設の必要性は認めるけれども、自分の家の近くにできるのは困るということで「Not in My Back Yard＝自分の家の裏には嫌だ」という問題をめぐって、住民、障害者・家族、職員それぞれの立場について考えました。参加者の中には、障害当事者やきょうだい児の方も混ざっており、当事者や家族の思いとして、「諦めている」「怒りが湧く（これは多くの生徒たちに気づきを与える発言だったようです）」などが出されました。また「そのような住民に対して、職員としてどう対応しますか？」という問いに対しては、「自分たちが話は聴くけれども、直接当事者の方に思いを話してもらうのが一番良い」「当事者が話すことに意味がある」というような素晴らしい意見も出てきました。〝Nothing about us without us！（私たち抜きに私たちのことを決めないで！）〟という障害者の権利条約の理念を感覚的に理解している生徒たちの発言を頼もしく思いました。その後聞いてみると、家族や親戚に障害がある人がいるや、ひとり親世帯や外国籍の世帯など何らかの当事者としての経験を有している生徒も多くいました。また、今の社会や教育の在り方に生きづらさを感じると語る生徒もいました。自分の持つ当事者性に蓋をしない、生きづらい社会だから変えていくと語る高校生の姿に明るい未来への希望が持てました。

本原稿を書いているのは、10月末。今週末は総選挙の投票日です。18歳を迎えた若者たちは投票権を持っています。広がるあの高校生たち（の中で18歳を迎えた者）やゼミの学生たちはどのような社会を選択したのでしょうか？？？気になるところです。社会をつくることを他人事ではなく、自分の問題として考えていける実感をどうしたら持ってもらえるのか…私の悩みも続きます。

障害者の「親なき後」問題と成年後見制度 第11回

成年後見もやいの後見支援員

◆後見支援員とは

成年後見もやいでは現在NPO法人として成年後見人・保佐人を家庭裁判所から受任してその業務を行っており、その業務は事務局職員と登録したボランティアの方（後見支援員）で行っております。後見支援員は社会福祉法人の元職員や障害者親族で成年後見制度や障害者の権利擁護に興味がある方に参加していただき、本人の見守りや身上監護、裁判所への報告をしていただいております。下の図は事務局と後見支援員の本人支援について示したものになります。

◎事務局・後見支援員・本人の関係図

◆後見支援員の活動状況

・後見支援員の登録人数……22名
・現在活動している後見支援員の人数……10名
・担当していただいている件数（延べ）……17件
・後見支援員が有している資格
▼社会福祉士
▼介護福祉士
▼精神保健福祉士　など
※後見支援員は資格等をお持ちでなくても登録することができます。

◆後見支援員交流会

成年後見もやいでは毎月「後見支援員交流会」を開催しております。交流会では後見支援員の方にそれぞれ担当していただいているケースの経過報告や成年後見制度に関わる話題を取り上げてミニ学習会をしております。コロナ禍以前は毎月もやいに集まって交流会をしていましたが、緊急事態宣言が発出されたときはリモートによる交流会を開催しました。後見支援員交流会は後見支援員以外の方でも参加することができます。成年後見制度のことで気になることがあるけれど、いきなりもやいに相談するのはハードルが高い…と感じる方は交流会の参加を検討してみてください。

※成年後見もやいでは後見支援員を募集しております。成年後見制度に興味があり、障害者の権利擁護に携わりたいと思う方はぜひご連絡お願いします。

表紙の作者紹介

「勇気と希望が友達」

ゆたか生活支援事業所みどり　森井 照子さん

今回が3回目の登場です。森井さんが粕畠ホームから、大清水ホームに引っ越しをして4年になります。余暇を楽しみにされていて、その日の出来事や出会った人が絵画に出てくることが多いです。

今回の作品は、何となく描いているうちにどんどんイメージが膨らんで色鮮やかなものになりました。絵や色使いも前向きでタイトルにもそれが表れています。絵画を通じて話の輪が広がったり、聞いてもらって自身の自信に繋がったりしているようです。目標だった来年のカレンダーの絵を毎日コツコツ描いたり、これまで描いてきた絵を大事にファイリングされています。

日誌　9月

3日(金)	社会福祉士相談援助実習合同ガイダンス
7日(火)	権利擁護・虐待防止委員会
11日(土)	職員研修
13日(月)	事業運営推進会議
15日(水)	副所長会議
21日(火)	広報・ホームページ編集委員会
22日(水)	所長会議/所長研修
24日(金)	新所長研修
27日(月)	研修部会議
28日(火)	強度行動障害者支援者養成講座「基礎研修」～29日(Web)
29日(水)	新主任研修
30日(木)	社会福祉士相談援助実習合同ガイダンス

助成お礼　愛知県共同募金会 様

この度、赤い羽根共同募金による助成を受け、念願の公用車を購入いたしました。これまでの車両は定員2名のため、相談員4名で工夫しながら訪問活動を行ってきました。購入した車は定員が5名となり、活用度が増すとともに、利用者さんを乗せて活動することも可能となりました。

愛知県共同募金会様をはじめ、募金に協力された皆様の思いを受け止め、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

ゆたか相談支援事業所どうとく

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

（9月22日～10月25日手続き分）　順不同　敬称略

太田　祐周
小野寺由里子
當間　弘子
後田　剛

早川　教示
駒村　忠俊
高橋　正教
山田　哲也

伊藤　浩
大浦　光義
武井　欽子

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

広報・466号

2021年11月号(2021年11月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 ／ 社会福祉法人ゆたか福祉会
印　　刷 ／ 株式会社東海共同印刷

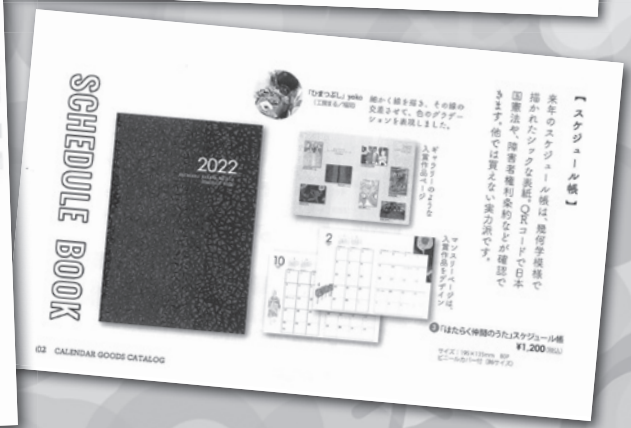
法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 ＝ 年間1口6,000円、
賛助会員（個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円）

●銀行口座　名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行	柴田支店	普通預金 291-884
・中京銀行	鳴海支店	普通預金 150-425

●郵便振替口座　00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会



2022 カレンダー販売の取り組み始まる！

多くの皆様のご協力をお願いします。

今年もカレンダー販売の時期を迎え、各事業所では 10 月後半から仲間たちや保護者の皆さんが中心となり、カレンダー販売の取り組みがスタートしました。一昨年度までは年末までの約 2 ヶ月間、作業所のニュースや注文チラシ、カレンダーの商品見本などをセットし、関係する皆さんの事業所を訪問していましたが、今回も昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症への対応として訪問は控えつつ、工夫をしながら取り組んでいます。

このカレンダー販売の取り組みは、今から 30 数年前の年末、「仲間たちのボーナス資金を作り出そう!」と始まりました。その後もこの取り組みは引き継がれ、現在も法人の自主財源づくりの活動として、多くの皆さんにご協力を頂きながら取り組む大切な活動となっています。

今回も「働く仲間のうた」カレンダーをはじめ、様々な種類のカレンダーがそろっています。ぜひ多くの皆様に、引続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

お問い合せはこちら

☎ 052-698-7356

法人本部 村上（むらかみ）まで

＊チラシ・注文書などの送付をさせていただきます。

＊各施設でも取り扱っております。

私たち3回目の成人式を迎えました！

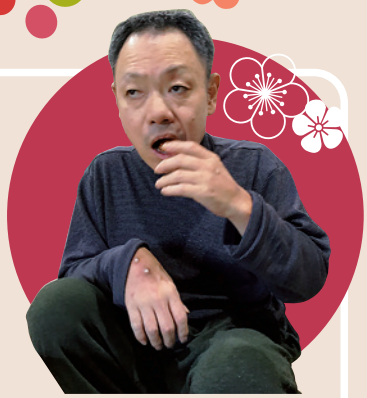
今回で 10 回目の連載となる「3 回目の成人式」です。毎回、登場する皆さんおひとりお一人の人生に触れながら、関わってこられたご家族・職員の想いを次代につなぎ、これからの人生がより輝くよう共に歩んでいきたいと思います。

ゆたか希望の家

玉置（たまおき） 信行（のぶゆき）さん

希望の家の 1980 年開所時からのメンバーで、いつもお元気でパワフルに過ごされています。入所して 40 年が経ちましたが、還暦を迎えたとは思えないほど、積極的に様々な場面で職員の手伝いをしていただいています。特に片付けが大好きで、床にゴミがあると、「ササッ！」とちり取りと箒を持って、綺麗にしてくれます。希望の家がいつも綺麗なのは、玉置さんのおかげです。

そんな玉置さんは「くりのき班」で、三つ編みや玉づくりなど自分の大好きな仕事を頑張っています。作業も丁寧で早くて職員もとても頼りにしています。いつまでもパワフルな玉置さんですが、そろそろ「ゆっくり」することも一緒に考えられるといいですね♪



木野（きの） 幸信（ゆきのぶ）さん

3 回目の成人式おめでとうございます。1982 年に入所され、39 年間希望の家で生活している木野さんも 60 歳を迎えられました。1 番のチャームポイントはとても明るく元気なところです。せんべいやコーヒーが大好きで職員の顔を見ると輝くような笑顔で「せんべい、コーヒー」と伝えてくれます。また、歌が大好きで元気に机を叩き、リズムをとって歌っています。

仕事面でも長い間、運送の仕事に携わって頂いており、大ベテランです。周りの仲間と協力して、一生懸命荷物を運んでくれています。母とのつながりは新聞や色々な場面で紹介されており、その思いを引き継ぎ、これからも木野さんが楽しく過ごせるように、一緒に頑張っていきましょう。

相田（あいだ） 美雪（みゆき）さん

無認可の上浜作業所から、1985 年にゆたか作業所に入所。2006 年 11 月に第 2 ゆたか希望の家へ異動され、2021 年 3 月に希望の家へ入所されました。初めは緊張していましたが、今ではすっかり生活にも慣れて、元気に過ごしています。リビングでゆったり過ごされる時は、美雪さんの持っているピアノのおもちゃを奏でたり、大好きな動物がたくさん載っている本を手に取り、ページをめくったり、牛や馬などの動画を観たりして楽しく過ごしています。

お話をする事が大好きな美雪さんは、いつも楽しい会話を通して周りにいる仲間や職員を和ませてくれます。「福祉村の仲間に会いたい」「牛を見に行きたい」というご本人の希望もあり、コロナが落ち着いたら出掛けられるようにしていきたいです。これからも健康に気を付けつつ、相田さんらしく、楽しく過ごして下さい。

リサイクルみなみ作業所＆ゆたか生活支援事業所あった（ホーム太陽）

福井（ふくい） ひと美（みさん

還暦を迎えたとは思えないほど若々しくてチャーミングな福井さん。1994年からリサイクルみなみの利用者としてリサイクルの仕事を頑張っています。毎日右わきにしっかりペットボトルを抱え、器用に左手でキャップ取りを行っています。他にも紙パックのプラスチック部分の切り取り、通称「口切り」などにも笑顔で取り組む姿がみられます。

作業所のことを聞くと「だいすき、ここしかしらんで。ずっとここだわ」と、いつもの笑顔でこたえてくれます。最近はもっぱら「おでかけができんでつまらんわ」とのこと。はやく感染症が落ち着いて楽しく行事や外出ができる日が待ち遠しい福井さんです。

ホームでは好きなTVドラマや野球などを観ながらゆっくり過ごされ、職員とよく好きな俳優さんについて話をされています。

休日の夜には、大好きなお酒を楽しまれています。ビアガーデンや居酒屋の取り組みには、特に積極的に参加され、職員も知らないような地酒や珍しいお酒にも詳しく、料理も含めて大人の楽しみ方が上手な方です。

ウィンドウショッピングやカラオケ、旅行なども好きで、コロナウイルスが落ち着いたら、また、色んなところへ外出することを楽しみにされています。

ふれあい共同作業所＆ゆたか生活支援事業所なるお（ほしざきホーム）

中井（なかい） 晃美（てるみさん

2002年ふれあいに入所。最初はパン現場で頑張り、今は嗜好品のタラ串刺しとペットフードの袋入れを担当しています。仲間の会では会計を担当。

1年ほど前から「今度私、還暦を迎えるの」とみんなに話しかけ、還暦までのカウントダウンボードを飾って、日にちが減っていくのを楽しみにされていました。

お祝い会は6月11日に開催。仲間からお祝いの言葉を頂き、お礼に毎日練習を重ねてきた嵐の「カイト」を歌い、「みんな！たくさんのお祝いをありがとう！」とお礼を述べていました。

なるお寮で暮らしていた中井さんが、ほしざきホームに引っ越して1年半ほどが経ち、生活にもだいぶ慣れて見えました。

寮にいた時から「60歳になったらデイサービスに行きたい」と言っていた中井さん。以前より体力的に疲れやすくなった様子もあり、60歳の誕生日を機にデイサービスの見学と体験実習をしました。現在は週に一度通われ、「デイサービスたのしいよ」と、楽しみに過ごされています。

リサイクル港作業所＆ゆたか生活支援事業所 みなみ（エール）

鈴木（すずき） 朱美（あけみ）さん

南区のグループホーム エールからバスを乗り継ぎ、電動車いすで通ってくる朱実さん。9月30日に、作業所の広い現場を利用して還暦祝いをおこないました。これからについて質問をしたところ「作業所は70歳まで働きたい。目標は死ぬ前日まで働きたい」との事。どよめきが起きました。

念願の市営住宅への引っ越しが決まり、11月から一人暮らしになります。「意気込みは？」の問いに、「60歳からの旅立ちだー」と元気な答え。夢は「パソコンを覚えて起業」「もう一度海外旅行に行きたい」です。大きな目標ですが、夢に向かって頑張ってください。

ホーム設立の年から入居され、エールでの生活は6年目になりました。

お話することが大好きで職員が居室に行くと、昔の思い出話や好きな事についてなど、楽しそうに話されています。現在1人暮らしに向けお部屋の掃除や荷造りを頑張っています。

また、外国の言語に興味があり、スペイン語検定を受験する為に、スペイン語のCDを聞いて勉強されています。10月31日にホームのみんなで還暦祝いを行い、朱実さんは以前から「着たい」と言っていたチャイナ風ドレスを着て、嬉しそうにされていました。

トライズ

大高（おおたか） 康弘（やすひろ）さん

回収現場では最初から約31年いる最古参のメンバーです。最近は体調を崩して、陰では少し弱気になる事もありましたが、それを周囲には一切出さず、明るく元気に何事も笑って吹き飛ばします。作業で失敗して落ち込んでも、直ぐに笑って切り替えています。

身体は段々と不自由な所が増えていますが、作業がやりやすいように自分で工夫して「俺は永遠の二十歳のつもりでやっている！」と言って元気に動いています。

趣味は珍しい古銭を探して集める事と、マンガのワンピースが好きで単行本は全部持っています。60歳もワンピースのTシャツを着て、若々しく過ごして欲しいです。

ワークセンターフレンズ星崎

磯和（いそわ） 自香（よりか）さん

今年の広報誌9月号「その人らしく 働く 暮らす」でも紹介された磯和さん。就労継続B型に所属され、来年1月に還暦を迎えられます。いつも元気に明るくみんなに挨拶をし、励ましてくれる存在です！フレンズ星崎では、自治会の取り組みとして、12月に還暦のお祝い会を予定しています。これからも長く元気に働き続けて下さいね♡ 還暦おめでとうございます。

‹ お姉さまよりのメッセージ ›

自香は我が家の太陽です。「おはよう！」と毎朝元気に起きてくると、家の中にパアーっと朝日が射したようです。「今日も仕事頑張るぞ！」とガッツポーズ。お友達と一緒に仕事をする毎日が楽しくて仕方ない様子です。フレンズ星崎でお世話になり早9年目。もうすぐ還暦を迎えようとしていますが、増々パワーアップ（笑）。これからもその明るさでまわりのみんなを照らしてね。3回目の成人式おめでとう！（磯和 佳織）

私たち3回目の成人式を迎えました！

グループハウスなぐら

「還暦会」を開催 ～いつまでもお元気で～

グループハウスなぐらでは3名の方が還暦を迎えられました。10月に行われた還暦会ではたくさんの仲間や職員から「おめでとう！これからも元気でいてね」「これからも一緒にがんばろう」と温かな言葉をもらいました。コロナ禍で盛大にお祝いをすることは叶いませんでしたが、それぞれの思いを伝い合える良い会でした。

近田（こんだ） 千枝（ちえ）さん

平成23年入所で今年は10年目の節目の年となります。昨年度、一念発起し自治会『やまゆり会』の会長になりました。他の仲間が入院していると「〇〇さん大丈夫かな」と心配したり、喧嘩している仲間を見て「どうしたらみんな仲良くできるかな」と頭を悩ませるなど頑張っています。普段は大好きな『嵐』のグッズが飾られたお部屋でコンサートのDVDを観るなどしてのんびり過ごされています。昨年の年末は嵐のオンラインライブを観てみんなで盛り上がりました。

還暦会では、仲間のみんなや職員からお祝いの言葉をもらい、涙で言葉をつまらせながら「ありがとう」と話してくれました。いつもみんなの心配をしてくれる心優しい千枝さん。自分自身のことも遠慮せずに職員に言ってくださいね。これからも健康で楽しく過ごして下さい。

富田（とみた） 克郎（かつお）さん

克郎さんは平成18年8月、グループハウスなぐら開所と同時に入所されました。ここでの暮らしは22年目になります。iPadを使いこなし、居室の本棚には数学の問題集や俳句の本が置いてある勉強熱心な克郎さん。他にも野球や相撲、ゲームなど多趣味でYouTubeを使い動画を見たり、ゲームをダウンロードしたりして楽しんでいます。最近のマイブームは『オセロ』。コンピューター相手に一進一退の攻防を繰り返し、勝利を手にした時には思わず職員を呼んで自慢されます。

還暦会を行った日はちょうどお誕生日でした。前に出てみんなから「おめでとう」とたくさん声をかけられ、照れくさそうに笑われていました。

職員の冗談に笑ったり、納得のいかないことに怒ったり、いつも全身を使って気持ちを表現してくれる克郎さん。そんな克郎さんに元気をもらっています。これからも素敵な笑顔を見せて下さいね。

内田（うちだ） 敦子（あつこ）さん

平成28年6月に入所され、元気に過ごされている敦子さん。日中活動では、みんなと協力して缶潰しや洗濯物を干したり、畳んだりする活動を頑張っています。トランプや坊主めくりなどのカードゲームが好きで療育の活動内容を決める時も「トランプやりたい」と進んで意見を出してくれます。

還暦会では、恥ずかしくてなかなか前に出て来られなかったのですが、みんなからお祝いの言葉をもらい出てきてくれました。カメラを向けると頬に人差し指を当て、可愛らしいポーズで映ることができました。

ドライブや食べることが好きな敦子さん。コロナが収まったらみんなでお出かけしましょう。